じょちゅうのねているところへ、きてみますと、ふたりいたじょちゅうが、ふたりともいないのです」「おまえのばんをするやくめなのに、どこにいっていたのであろう。しっかりしからなければならないな」と、おうさまは、またもや、はらをおたてになりました。「それがねえ、おとうさま。おしかりになっては、いけないのですよ。あたしも、どこにいったろうと、おもって、さがしてみると、ふたりとも、はたおりべやにいって、いとをつむいでいるのです」「なに、いとを」と、おきさきさまが、いわれました。「かんしんだねえ。よるもねないで、いとを、

つむいでいるなんて」「それが、まだかんしんすることが、あるのですよ」おしゃべりひめは、なおも、まえのおはなしをつづけました。「あたしは、ふたりのじょちゅうが、いまごろなんだって、はたおりしつにはいって、いとをつむいでいるのだろうと、おもって、そっとかぎのあなから、なかのようすをみますと、ほんとうにびっくりしてしまったのです。だって、ひがしのほうのかべと、にしのほうのかべに、いちれつずつ、なんびゃくか、なんぜんか、わからないほど、たくさんのくもが、ずらりとならんでいるのです」「なに、くも